I-25

# 1960 年代におけるハンス・ホラインの空想的プロジェクトとその思想

## 都市的ユートピアの提案とその「知」のパラダイム

A Thought and Imaginal Projects of Hans Hollein in 1960s

Utopian City and Paradigm of “Intelligence”

○倉成湧貴 [1]

*Yuki Kuranari[1]

In 1960s, Hollein advocated a theory that would shake the foundation of architecture, where he aimed to question and extend the concept of architecture fundamentally. It seems that the architecture that existed as a matter of fact was expected to continue to insist on content that gives psychological quality to the space. Now, half a century after Holline's imaginary project, the paradigm of “Intelligence” cannot be said to have changed significantly, and there is little movement to ask questions. It’s necessary to have a flexible and fancy project like Hollein?

1.序論

1-1.研究背景

現代の都市においては、19 世紀から 20 世紀初頭にかけての工業化の時代に発案されたモダニズムの都市像が大きく変わることなく続いており, 都市の景観やヒト・モノの動きなどが, 近代以前に比べ飛躍的に進化してきた. しかし, 類似する建物がどの国・地域にも乱立するようになり, 都市としての固有性をなく失う. こうした潮流は現代の社会では、止めることは難しいと考えられる.

また, 情報化が進展し人々の社会に対する役割が変わる中, 長期的には飛躍的な発展をすることが難しい日本などの先進諸国ではこの先の未来に対してどのような都市を考えるべきかを考える必要がある.

1-2.研究目的

本研究は, これまでに提案されてきたユートピア的都市像をその目的や主張、さらにそれを創り出す背景を踏まえながら, それらを生み出した「知」の枠組みに関して考察する.

研究方法

これまでの空想的都市構想の事例を参照し, その歴史的背景や主張から, どのような相手に対して, どのような「知」の背景をもって主張や提案をしているのかを見極める.

2.都市的ユートピアと「知」のパラダイム

1960 年代、近代化の中で出現した第 1 世代の建築家らが表舞台から去っていき, 近代の枠組みが多く崩壊したこの時代は, 非常に注目すべきところである。このころになると「知」のパラダイムが幅広い分野から細分化されていく過渡期にあたる時期といえる. 今回はその中で生まれたもののうちオーストリアの建築家「ハンス・ホライン」について, 初期の構想の背景から考察する.

ホラインはこの時代, 建築の根幹を揺るがす論を唱えた. ここでは, 建築の概念を根源的に問い、拡張させることを目論んでいた. 一連の作品を見てみると, 「建築」の概念がいかに固定化され, 制約を受けてきたかということを改めて再考させられる.

**Figure1**. Aircraft Carrier City

2-1.「航空母艦都市」における科学技術に対する警鐘

「航空母艦都市(Figure1)」を見ていくと、建築と芸術のそれぞれの概念の対立や融合といった既成の考え方に対して, 建築それ自体の概念から全く新しい視点のもとにとらえなおそうとしていたといえる. また, この作品から従来の考え方の下では「非建築的」, 「非実用的」な形態を出しているうえ, 超越したテクノロジーの絶対的な表現だけが提示されている. これらはテクノロジーの危険で破壊的な側面を内部に秘めたような, 暗く性的な衝動に身をゆだねるときの美意識であり, 当時の社会に対する風刺的な部分に通じているといえる. この背景の１つとして, ナチの対空監視所を挙げており, 彼の生まれ育ったウィーンの伝統的な街並みの中に異物のようにそびえ建つコンクリートの塊は, 景観を暴力的に侵し, 力強く訴えるものとして存在している. 第二次世界大戦期に幼少期を過ごした世代にとってのテクノロジーとは, 人々を便利にさせるものではなく, 残酷に人々を迫害し, 虐殺し, さらには滅亡させるような凶器であるととらえていたのだろう. その恐怖から導き出される精神的な感

１：日大理工・学部・建築

覚を喚起させるための関係性をつかみ出すことから, 物質や身の回りのものがもつ多様な表情を位置と視点を変えることによって意味を覆して, ありのままの存在に還元していくといった表現をおこなうことにつながっていったといえる.

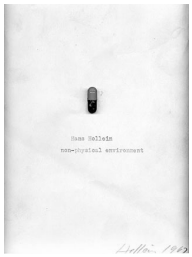


**Figure 2.**Non Physical Environmental Control Kit

2-2.「ノン・フィジカル・エンバイロンメンタル・コントロール・キット」による「建築」の概念の転覆

その後, 「建築」という概念に対してマクルーハン的な考え方をも投入していく. 「ノン・フィジカル・エンバイロンメンタル・コントロール・キット（Figure 2）」は、錠剤を服用することによる感覚的な空間変化が起こることを予想し, 「建築」の一つであるとした. マクルーハンの考え方にのっとり, 建築は情報そのものであり, それは空間や環境の中ではメディアであり, さらにはメッセージとなるとき, 従来の「建築」の概念は覆り, 拡張をしていくことになる. そして, 実態として存在する建築は空間の質を心理的に与える内容とともに主張し続けると予想していたと思われる. 「建築」という曖昧な概念を職業的なものとしてとらえてしまうことに対して, 空間や環境の中に入るすべての要素を「建築」とすることによって, 物理的な実体としての「建築」に対して還元させる, こうして, 「すべては建築である」といった考え方につながっていったといえる. テクノロジーによって支配されるこの社会を概念や視点を変えてとらえなおすことは, 当時そして今の私たちに対して科学技術の危うさや「知」の領域を狭めてしまうことに警鐘を鳴らしているともいえる.

3.空想的プロジェクトの意義

建築家のプロジェクトが非現実的な形を成し, 空想的でありながらその存在の意味を得て有効性を与えるのは, その時の立場が社会的に阻害されている時である. 根底には「欲求不満」があると言え, 大きく４つの場合があるといえる. １つ目にその建築家の経験が浅く, 実作が作れない環境にあるときで、ホラインがこれにあたるといえる. ２つ目に社会的に実現するための条件が, 建設することができない場合で, バックミンスター・フラーのメガストラクチャーなどが該当する. ３つ目が過去の失敗などで自らの立ち位置を失ったときで, ４つ目が権力などの力関係によって抑圧されたときである. 実際はこれらが複雑に絡み合ってフラストレーションが生み出されるわけであるが, 現代社会では「知」のパラダイムが狭い権力者によって世界が支配されていることによって多くの問題が解決できずにいると言え, さらに, 狭くなっていく過程で互いの利害関係を争うといったことまで起きてしまっているのだ. こうした状況に立ち向かう方法としては, エピステーメーを撤廃させることが必要となる. ホラインは若年ながら, 近代以降に固定化されていった建築界におけるに対して疑問を抱き, テクノロジーを中核とするような社会に問いかけるプロジェクトを多く発表したことは, 規制の概念を撤廃させ新たに構築させることによって, 社会における「建築」のあり方を再考させることが目的であったように思われる. ホラインの空想的プロジェクトから半世紀を経た現代の社会においても, その枠組みは大きく変わっているとは言えず, 問い直そうとするような動きも少ない. この社会の問題を問いかけるためにも, ホラインのような柔軟で空想的なプロジェクトは必要ではないだろうか.

［参考文献］

[1]「IMPOSSIBLE　ARCHITECTURE」五十嵐太郎編　平凡社　2019
[2] 篠田桃紅・芦原義信「未来都市の系譜:建築の周縁を語る」『建築雑誌』Vol.115　No.1449　pp.30-49　2000 年１月号
[3]五十嵐太郎・磯達雄『ぼくらが夢見た未来都市』PHP 新書　2010
[4]磯崎新　『建築の解体』　鹿島出版会　1997
[5]M.マクルーハン　『メディア論　人間の拡張の諸相』栗原裕　河本仲聖　訳　みすず書房　1987
[6]西垣通　『ネット社会の「正義」とは何か　集合知と民主主義』　角川選書　2014
[7]ケヴィン・リンチ　『都市のイメージ　新装版』　丹下健三　富田玲子　訳　岩波書店　2007

［図版出典リスト］　いずれも 2019 年 9 月 20 日　参照
Figure1:https://blogimg.goo.ne.jp/user_image/7b/9c/49450d4e8fcc71a92aee50de80525356.jpg
Figure2:https://stat.ameba.jp/user_images/20090719/19/artgroovecorporation/e6/e2/j/t02200298_0314042510216251771.jpg?caw=800